



もてなしの心で語る わが街

えな白慢

えな白慢
9

恵那栗

恵那名物栗菓子の原料



実りの秋、収穫間近の恵那栗

ひと口メモ

クリと言えば東美濃と言われ、栗きんとんは今では全国に聞こえる銘菓となっている。地元ではそれら栗菓子の需要に応じてクリ栽培も盛んになり、超低樹高栽培という全国に誇れる革新的な剪定方法も開発されている。

東美濃地域で栽培され、和菓子屋さんで、栗きんとんなどの栗菓子の原料として使われている。現在、主に10品種が市内のクリ農家で栽培されており、多くのクリ農家は早生、中生、晩生までいくつかの品種を混合栽培して、安定した収穫量を確保している。市の年間収穫量は147ト（平成19年 農林水産省データによる）と、県下では多い地域。クリ農家や研究家らの努力によって、秋一番に収穫でき、栗きんとんにぴったりの品種「胞衣」や、虫害に強く収穫も安定して栽培しやすい「金華」などが開発されている。恵那栗は年々認知され地域経済の活性化、恵那ブランドなどの代表となっている。

花白温泉

200年の歴史を持つ伝統の秘湯



明知鉄道花白駅から徒歩0分の花白温泉

ひと口メモ

市の施設であった花白温泉は、2007（平成19）年に地元へ譲渡。昨年12月には経営の悪化により、温泉の営業を停止していた。しかし、新たな経営体制を構築して、施設の改装後の本年8月には、営業を再開している。月曜定休（祝日は翌日）

山岡町の明知鉄道花白駅の傍らに自噴する温泉。言い伝えによると、1782（天明2）年から1786（天明6）年の間、洪水や地震などの災害に凶作が続き、その上、全国に疫病が流行したとき、この湯を使用すると不思議と病が全治したという。そこで、1791（寛政3）年には感謝を込めてお釈迦様が建立された。湯量豊富で、大きなおけに湯が青々とたまり、白い花にまがう湯の花が美しく浮いていたことから、花白の湯と名付けられたと伝えられている。1988（昭和63）年にその源泉を引き、現在の花白温泉がオープンした。泉質は単純放射能線で神経痛、リウマチ、胃腸病、冷え症、腰痛、荒れ症、しもやけ、あかぎれなどに効能がある。



▲浴室に描かれた特産の細寒天作りの絵

えな白慢
10

次号は10月15日号
発行日は10月15日（木）です

広報えな No.114
2009年（平成21年）
10月1日発行

発行 恵那市役所 / 編集 企画課広報広聴係
岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1 ☎26-2111 / ☎25-6150
<http://www.city.ena.lg.jp/> ✉info@city.ena.lg.jp

『広報えな』10月1日号、1部当たりの印刷経費は約9.5円（税込み）です。



恵那市安心安全メール配信システム
登録用QRコード
□問い合わせ 防災対策課（内線317）

『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。



この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい大豆油を使用したインキで印刷されています。